

# 平成 23 年度決算報告書



株式会社エフエム東京

平成 24 年 5 月 29 日

報道各位

株式会社エフエム東京

## 平成 23 年度業績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災、欧州金融危機、急激な円高、タイの洪水被害等の影響を受け、厳しい状況下にあったものの、第 2 四半期以降は企業の生産活動の回復を背景に、緩やかではありますが徐々に持ち直しの兆しを見せて推移しました。しかし、景気の先行きについては慎重な見方が大勢を占めており、雇用情勢も依然厳しい状況が続いております。

広告市場においては、特に東日本大震災の後に起きた広告自粛の影響が大きく、下期には回復に転じたものの、平成 23 年の日本の総広告費（株電通推定）は 5 兆 7 千 96 億円（前年比 2.3%減）と、4 年連続で減少となり、なかでも、新聞・雑誌・テレビ・ラジオの所謂マスコミ 4 媒体の広告費については前年比 2.6%減と、7 年連続の減少となりました。このうち、テレビ広告費は前年比 0.5%減と微減に留まったものの、ラジオ広告費は 4.0%減となり、当社グループにとって厳しい経営環境が続きました。

このような状況の中、当社グループでは、各事業部門の営業努力等により、当連結会計年度の当社グループの売上高は 181 億 5 千 8 百万円（前期比 0.3%増）、営業利益は 11 億 1 百万円（前期比 78.6%増）、経常利益は 10 億 4 千 6 百万円（前期比 67.8%増）、当期純利益は 4 億 8 千 4 百万円（前期比 1.4%増）となりました。

当社単体の業績につきましては、厳しい経営環境の中でクライアントの業種拡大等、戦略的な営業活動を展開したことに加え、コスト・コントロールに徹底して取り組みました。その結果、売上高が 140 億 3 千 4 百万円（前期比 7.4%増）となり、営業利益は 9 億 6 千 2 百万円（前期比 66.5%増）、経常利益は 9 億 9 千 8 百万円（前期比 79.3%増）となりました。一方、当期純利益は、法人税制の改正に伴う繰延税金資産の取崩しの影響等により 4 億 3 千 4 百万円（前期比 3.6%増）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下の通りです。

### <放送事業活動>

FM 放送事業においては、当社の理念である「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」を実践し、東日本大震災後からの 1 年間を通して、復旧、復興に向かう人々の心に寄り添った放送活動を展開しました。

昨年 3 月 11 日からの CM、提供クレジットを全面休止した 1 週間の完全報道特番、およびその後の準特番体制では、メディアの公共的役割を果たしながらも、被災地目線に徹した放送が SNS 等のソーシャルメディアをはじめ高い評価を得ました。4 月以降の放送においても長期的視点に立ち、被災地と全国のリスナーをつなぐ番組企画を数多く立ち上げました。FM 岩手とともに釜石市にサ

テライトスタジオを設営し現地からの生中継を繰り返し放送したほか、同市の臨時災害 FM 局設置にも全面的に技術協力しました。また被災地局で桑田佳祐はじめ多くの人気アーティストによる生放送、コンサート中継を実施しました。そのほか全国ネット番組「LOVE & HOPE～ヒューマン・ケア・プロジェクト～」(月～金曜 6:30～6:40)をスタートさせ、医師、メディカルトレーナー、ミュージシャンなどを帯同して被災地に出向き、心と身体のケア、ライブ演奏、よみきかせイベントなどを実施、被災された方々へのダイレクトなコミュニケーションに努めるとともに、支援に携わる人々の活動を伝え続けています。「クロノス」(月～金曜 6:00～8:30)および「SCHOOL OF LOCK!」(月～木曜 22:00～23:55/金曜 22:00～22:55)では、被災地の児童、生徒に図鑑や漫画を届けようと呼びかけたところ、1万冊を超える図鑑や、2万冊の応援メッセージ入りの漫画が全国から寄せられ、避難所や被災各地の学校に届けました。このほか、日本の食文化を伝える番組「ベジラジオ」(日曜 12:00～12:25)で、風評被害を被る被災地の野菜や果物を生産者が即売するイベント「東北復興応援市」を、東京、大阪など各地で開催するなど、様々な形で被災地支援を行いました。

また、防災の視点から9月1日の「防災の日」には「REMINDE 3・11 ～震災から学んだこと、そしてこれから～」を1DAY企画として展開し、放送前日の朝日新聞に全15段3面にわたり特集記事化されました。夏休みの8月23日、節電が続く東京を少しでも元気にしたいとの思いから、「東京タワー 完全ライトアップ大作戦 -希望の光を照らせ!-」プロジェクトを実施。パーソナリティーやリスナー、著名人ゲストなど、5千人以上が参加して人力発電自転車を使って蓄電し、節電中の「東京タワー」の完全ライトアップに成功、多くのメディアで紹介されるなど反響を呼びました。

震災から1年を迎えた本年3月5日からの1週間は「LOVE & HOPE～春を待ちわびて～」をテーマに、復興に向かう市井の人々にスポットを当てた様々な特別企画を展開しました。その一つとして、福島県南相馬市の高校3年生から寄せられた「原発事故避難で各地へ離散した友達と一緒に卒業式をしたい」との訴えに応え番組から呼びかけを実施、放送を聞いた3年生100人をはじめ家族や友人がふたたび南相馬に集いました。そして3年生念願の卒業式を開催したほか、人気アーティスト高橋優によるライブとこの日のために作られた曲「卒業」を卒業生に贈り、そのようすを全国に放送しました。3月10日(土)、11日(日)には、「COUNTDOWN.jp」「桑田佳祐のやさしい夜遊び」をはじめ全国ネットの人気番組を、被災各地から出張生放送しました。そして震災発生時刻にあたる「山下達郎のサンデーソングブック」(日曜 14:00～14:55)では、この日の追悼プログラムのために新たに録音した山下達郎の名曲「希望という名の光」をオンエア、14時46分には鐘の音を聴きながら1分間の黙祷を捧げました。その番組内容は、Twitter等で大きな反響を呼びました。

一方、2010年度からのFMフェスティバルは、未来の日本を担う大学生たちにエールを送る「未来授業～明日の日本人たちへ～」を実施していますが、2011年度は、東京、名古屋、福岡、そして被災地 仙台の4地区に規模を拡大して知の論客たちによる公開授業を開催しました。放送と連動したビデオポッドキャストによる公開授業の映像配信も2年続けて120万を越えるダウンロードを記録し、大学生たちの聴取習慣づくりへ大きな一歩を踏み出しています。この模様は11月3日に特別番組として放送しました。

このほか人気のレギュラー番組も聴取者とのコミュニケーション拡大に努めました。ラジオドラマ「あ、安部礼司～beyond the average～」(日曜 17:00～17:55)の放送300回記念イベント「あべ博」

を2月に開催、ドラマの人気キャラクターが総出演する公開収録を実施したほか、番組の軌跡をたどる展示、番組関連商品の販売などを行い、来場者総数は会場の日産グローバル本社ギャラリーの最高記録となる2万3千人以上にのびました。「SCHOOL OF LOCK!」では新しいクロスメディア展開として SNS の mixi と連携してソーシャルラジオ企画を展開、「恋愛」をテーマに中高生たちのメッセージを番組が募集し、mixi に開設された番組連動サイトで企画を増幅させるという仕組みを構築したところ、参加者が130万人を突破、WEBで発行されたクーポンで42万人がコンビニエンスストアに商品と引き換えに出向くなど、SNS でつながる友人と一緒にラジオ番組に同時に参加し、かつ来店行動を起こすという新しい統合型メディア展開を実現しました。

一方、震災を契機にラジオの価値が再認識される中、IP サイマル配信にも積極的に取り組んでおります。従前より参画している「radiko」「LISMO WAVE」の拡大に加え、スマートフォンで JFN38 局の放送が聴取できるサービス「ドコデモ FM」をスタートさせ、docomo のスマートフォンに続き、au およびソフトバンクの iPhone 向けの配信を開始、3キャリアでの IP サイマル配信を実現させました。市場を拡大し続けるスマートフォンのユーザーを新規リスナーとして開拓しており、ラジオの聴取環境改善と新たな接触機会を創出しています。

「V-Low マルチメディア放送」に関しては、東日本大震災の影響により制度整備が遅れていましたが、昨年夏にあらためて参入希望事業者へのヒアリングが行われ、当社の要望である「制度整備に先んじた実証実験の実施」が認可され、全国7地域での実施が12月に総務省より発表されました。当社は九州・沖縄マルチメディア放送(株)に資本参加して、福岡地域で地元企業とともに実証実験の準備を始めており、平成25年度に想定される本放送開始に向け新しい商用サービス・コンテンツの開発を推進してまいります。

#### <企画・制作事業活動>

企画・制作事業においては、第1四半期は東日本大震災の影響があり、イベントの中止や延期が相次ぎました。当社でも毎年4月22日アースデーに実施している「アース&ヒューマンコンシャスライブ2011」を9月に延期して開催、今井美樹、藤井フミヤなど J-POP の実力派ボーカリスト4組が出演し、6カ国語、38の国と地域、120の放送局に向けて、震災支援への感謝の気持ちを伝えるとともに、震災復興に向き合う日本の姿を世界に発信しました。また5月には「横山幸雄ショパン・ピアノソロ完全奏破 全212曲コンサート」をチャリティーとして開催したことをはじめ、一年を通して様々なイベントにおいて被災地支援に取り組みました。

一方、多くの若者に共感を呼ぶ企画も多数実施しました。8月、レッド・ホット・チリ・ペッパーズ、X-JAPAN、アヴリル・ラヴィーンなど国内外のビッグ・アーティストが参加した「SUMMER SONIC 2011」では、3日間で約13万人を動員しました。また、人気ミュージシャンを毎年輩出している「SCHOOL OF LOCK!」発10代ミュージシャン限定のロックイベント「閃光ライオット」では、1万を超える出場応募者の中から各地の予選を勝ち抜いた若手バンドたちによる決勝大会を盛況のうちに行了しました。

また年末には、前年に引き続き西本智実指揮による「夢の第九コンサート」を実施、夏から練習を一緒に重ねてきた全国の参加者が集い、「歓喜の歌」を合唱しました。3月には「JET STREAM」

(月～金曜 24:00～24:55)の放送 45 周年を記念して「JET STREAM 2012～Music Around The World～」を開催、国内の一流ミュージシャンが世代を超えた名曲を次々と演奏し観客を“音楽の世界旅行”へと誘いました。

当社が「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心～」の一環として 2010 年から展開している Hellosmile(子宮頸がん予防啓発プロジェクト)では、世界の女性の健康と生命の問題に取り組む「国連人口基金(UNFPA)」と日本で初めてグローバルパートナーシップを結びました。4月と 11 月には「Hellosmile Live 2011」を実施、プロジェクトに賛同するアーティストが若い世代の女性に子宮頸がんの予防啓発を呼びかけました。また、(株)ユニクロが日本発の CSR 活動としてプロジェクトに賛同し、応援キャラクター“キティ”のコラボTシャツを日本を含む世界 11 カ国で発売しました。さらにプロジェクトのオフィシャルエアライン日本航空(株)では、機体に Hellosmile キティを塗装した特別機 Hellosmile JET を就航させるなど、当社発の CSR 活動が国内外へ展開いたしました。

#### <インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン(株)では、従来型携帯電話からスマートフォンへの急激な事業環境の変革に対応するため、スマートフォン向けアプリの新規開発や、SNS 向けソーシャルゲームの開発に注力し、その展開を加速させました。人気プロ野球球団と契約し、選手の背番号による時刻表示やフォトギャラリー、ライブ壁紙など野球ファンが楽しめる機能を満載した iPhone アプリ・Android アプリが人気を集めました。さらに人気スナック菓子をゲーム化した iPhone アプリ「うまい棒をつくらう！」を制作、配信しました。このアプリは若者から年配者まで知名度が高い商品のアプリ化だったこともあり、6日間連続で AppStore 無料アプリ総合ランキング1位を獲得し、累計 66 万ダウンロード(平成 24 年3月末現在)のヒットを記録し、広告媒体による収益モデルで成功を収めました。さらに女性をターゲットとした恋愛シミュレーションゲームを開発し、プレイステーション・ポータブル版で展開する等、収益源の多様化につながる取り組みを開始しております。

#### <賃貸事業活動>

オフィスビル「JFN センター」「メディアセンター」等の賃貸事業を展開しました。

#### <その他の事業活動>

TOKYO FM 少年合唱団は、メトロポリタン・オペラ日本公演「ラ・ボエーム」(東京、名古屋)をはじめ、新国立劇場主催オペラ等に出演したほか、テレビ音楽番組出演やドラマの吹き替えなど多彩な活動を行いました。その他、本社及び当社関連ビル内の直営2店舗によるレストラン事業を展開しました。

以上

## 前期比較損益計算書（連結）

平成23年4月1日～平成24年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	平成24年3月期 (H23. 4. 1～H24. 3. 31)	平成23年3月期 (H22. 4. 1～H23. 3. 31)	前期比
売上高	18,158,849	18,102,335	100.3%
売上原価	11,719,853	11,738,059	99.8%
売上総利益	6,438,995	6,364,276	101.2%
販売費及び一般管理費	5,337,008	5,747,179	92.9%
（内のれん償却額）	（128,323）	（92,300）	（139.0%）
営業利益	1,101,987	617,096	178.6%
（売上高営業利益率）	6.1%	3.4%	
営業外収益	78,429	178,880	43.8%
営業外費用	134,096	172,447	77.8%
経常利益	1,046,320	623,528	167.8%
（売上高経常利益率）	5.8%	3.4%	
特別利益	77,582	763,791	10.2%
特別損失	44,037	580,260	7.6%
税金等調整前当期純利益	1,079,866	807,059	133.8%
法人税、住民税及び事業税	△163,128	210,200	—
法人税等調整額	738,337	33,951	2174.7%
少数株主損益等調整前 当期純利益	504,656	562,907	89.7%
少数株主利益	20,263	85,209	23.8%
当期純利益	484,393	477,698	101.4%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 前期比較損益計算書（当社単体）

平成23年4月1日～平成24年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	平成24年3月期 (H23. 4. 1～H24. 3. 31)	平成23年3月期 (H22. 4. 1～H23. 3. 31)	前期比
売上高	14,034,497	13,061,840	107.4%
売上原価	9,229,973	8,595,608	107.4%
売上総利益	4,804,524	4,466,231	107.6%
販売費及び一般管理費	3,842,232	3,888,130	98.8%
営業利益	962,291	578,101	166.5%
（売上高営業利益率）	6.9%	4.4%	
営業外収益	126,555	114,694	110.3%
営業外費用	90,128	135,675	66.4%
経常利益	998,718	557,120	179.3%
（売上高経常利益率）	7.1%	4.3%	
特別利益	1,632	51,693	3.2%
特別損失	11,934	81,606	14.6%
税引前当期純利益	988,415	527,207	187.5%
法人税、住民税及び事業税	5,140	5,140	100.0%
法人税等調整額	548,548	102,477	535.3%
当期純利益	434,727	419,589	103.6%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 前期比較売上高内訳書(当社単体)

平成23年4月1日～平成24年3月31日

(単位:千円)

	平成24年3月期 (H23.4.1～H24.3.31)	平成23年3月期 (H22.4.1～H23.3.31)	前期比
売上高	14,034,497	13,061,840	107.4%
放送事業収入	11,780,155	11,396,798	103.4%
放送収入	8,039,368	7,883,688	102.0%
タイム放送料	5,855,828	5,737,542	102.1%
スポット放送料	2,183,540	2,146,145	101.7%
制作収入	2,007,219	1,921,221	104.5%
その他	1,733,567	1,591,889	108.9%
企画事業収入	1,581,401	1,005,564	157.3%
賃貸事業収入	558,751	552,082	101.2%
その他事業収入	114,188	107,395	106.3%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。



## 47期(通期)広告会社取り扱い順位

### <総合順位>

47期	46期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツー ディ・ケイ
4	5	東急エージェンシー
5	4	ビデオプロモーション
6	-	大日本印刷
7	14	クオラス
8	8	三晃社
9	9	オフィスフラッグス
10	62	日本経済社

### <タイム>

47期	46期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツー ディ・ケイ
4	5	東急エージェンシー
5	4	ビデオプロモーション
6	-	大日本印刷
7	69	日本経済社
8	9	オフィスフラッグス
9	11	クオラス
10	6	読売エージェンシー

### <スポット>

47期	46期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	5	アサツー ディ・ケイ
4	4	三晃社
5	6	放送文化事業
6	46	マツキャンエリクソン
7	10	クオラス
8	7	毎日広告社
9	9	東急エージェンシー
10	-	大日本印刷

# 平成24年3月期決算短信

平成24年5月29日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富木田 道臣

問合せ先責任者(役職名) 執行役員総務局長 (氏名) 村上 正光 TEL (03)3221-0080

定時株主総会開催予定日 平成24年6月29日 配当支払開始予定日 平成24年6月29日

(百万円未満切捨て)

## 1. 24年3月期の連結業績(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期	18,158	0.3	1,101	78.6	1,046	67.8	484	1.4
23年3月期	18,102	△10.8	617	△15.4	623	△6.8	477	△12.7

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
24年3月期	540 65	— —	2.0	2.9	6.1
23年3月期	533 18	— —	2.0	1.6	3.4

(参考) 持分法投資損益 24年3月期 △6百万円 23年3月期 92百万円

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期	35,013	24,856	70.1	27,414 44
23年3月期	38,230	24,256	62.7	26,762 99

(参考) 自己資本 24年3月期 24,561百万円 23年3月期 23,978百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金			配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率(連結)
	中間期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
23年3月期	30 00	30 00	60 00	54	11.3	0.2
24年3月期	30 00	60 00	90 00	81	16.6	0.3

## 3. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 無
- ② ①以外の会計方針の変更 無
- ③ 会計上の見積りの変更 無
- ④ 修正再表示 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 24年3月期 900,000株 23年3月期 900,000株
- ② 期末自己株式数 24年3月期 4,057株 23年3月期 4,057株
- ③ 期中平均株式数 24年3月期 895,943株 23年3月期 895,943株

(参考) 個別業績の概要

1. 24年3月期の個別業績 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期	14,034	7.4	962	66.5	998	79.3	434	3.6
23年3月期	13,061	△ 1.7	578	△ 17.7	557	△ 19.5	419	△ 35.4

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
24年3月期	483	03	—	—
23年3月期	466	21	—	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
24年3月期	34,166		25,433		74.4		28,259	29
23年3月期	36,711		24,913		67.9		27,681	37